

## 感染者情報の活用のあり方に関するWG（9月8日（火））の検討状況等

## 1. 9月8日（火） 第3回WGの状況

## 【主な内容】

## ① 第2回WG（8/11）後の主な対応と当面のシステム改修項目

## &lt;第2回WG後の主な対応&gt;

- ・ HER-SYS 利用自治体の増加（保健所設置自治体の99%が利用）
- ・ 医療機関の担当者向けマニュアル・QAの整備（8/24 発出）
- ・ 利用実態を把握するためのアンケートの開始（8/24～） 等

## &lt;システム改修予定&gt;

- ・ 発生届の情報が必須入力項目である旨の表示の明確化（9/10）
  - ・ 入力した情報をダウンロードする際の検索機能の向上（9/10）
  - ・ 発生届の入力項目に関するエラーチェック機能の追加（9月末） 等
- ※ 例えば、報告日と診断日の先後関係が異なる場合に入力できない仕様に変更

## ② HER-SYS の入力項目の優先順位付け

まずは、感染症法に基づく義務である「発生届」の情報と現在のステータスを確実・正確に入力してもらうことを最優先に対応すること。

※ 9/9に事務連絡を発出済

## ③ HER-SYS の現場における北九州・沖縄における活用例

例えば、沖縄県で HER-SYS を有効活用し、健康フォローアップを行うことで、感染者等へのきめ細かい対応や保健所の負担軽減にも繋がっている例を紹介 等

## 【概要】

## ① これまでの主な対応と当面のシステム改修項目

→ 前向きに取り組んでいることについて、一定の評価。

委員からは、引き続き、自治体からの要望に対し、きめ細かに対応していくよう要請があった。

② HER-SYS の入力項目の優先順位付け

→ 特段の異論無く了承。その上で、「発生届」や「現在のステータス」以外の情報で優先的に入力してもらいべき項目を整理し、次回WG（9月下旬を予定）で御議論いただく予定。

③ HER-SYS の現場における北九州・沖縄における活用例

→ 委員からは、好事例を整理し、自治体・医療関係者等に横展開していくよう提案あり。

→ 一方で、データを入力させるだけでなく、サーベイランスに活用できるようなデータベースにする必要があるが、現状、どの程度の情報が入力され、各種分析等に耐え得る状況になっているか、現状を整理すべきとの意見あり。次回WGで議論予定。

## 2. 今後の進め方

次回WGでは、優先入力項目の更なる整理、データ入力の現状や入力データの精度向上に向けた仕組みづくり等について重点的な議論を予定。

※ 平行して、少人数による実務的検討を進める。

# HER-SYSの 現場における活用例 (沖縄での事例から)

---

# 1. 概要

- 沖縄県では、HER-SYSによる発生届提出など、医療機関での利用が進んでいる。
- 現状は、発生届を含む初期情報（患者基礎情報）の入力に加えて、その後の疫学調査情報やステータス等の入力をどのように促進していくかが課題。
- 医療機関・保健所・自治体等の活用場面ごとのメリット整理や、HER-SYSの利用モデルを作り、展開していくことで、より入力率及び情報精度の向上につながると考えられる。

## 2. 沖縄県の現状

- HER-SYSへの入力率は高い
- 特に病院は県立病院を中心とするネットワークが強く、医療機関での発生届の入力が進んでいる。

[参考] HER-SYS患者情報入力率 (8/27 15時)

	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	1週間
新規感染者数	45	30	31	25	22	32	34	219
ハース入力数	44	30	31	25	22	31	31	214
入力率	98%	100%	100%	100%	100%	97%	91%	98%

# 3. HER-SYS活用場面・導入の工夫

## 【医療機関での入力率向上の取組・工夫】

### ◆ 主要病院

- 県コロナ本部常駐の医療コーディネータ（医師）から**医師および院長のネットワーク**を通じて、県内医療機関にHER-SYSの導入・利用に関する周知を行った。
- **医師**（医療機関）**にとっては、情報がデータ入力されていれば、患者情報がすぐに探せ、経過が追える点で患者情報のクラウド化のメリットは大きい。**
- 導入時のハードルはあったが、まずは患者の基礎情報だけでも必ず入力するよう促すことで、普及につなげた。

### ◆ 検査協力医療機関

- 県が医師会との集合契約締結にあたり、検査協力医療機関に対しては**HER-SYS入力を実質必須化**
- 医師会からは「HER-SYS説明会」を依頼され、7月下旬に**県担当者が説明会を実施した。**（初回ログイン方法など。ZOOMでも配信）

入院調整時の患者情報の確認



HER-SYS（新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム）

厚生労働省では、保健所等の業務負担軽減及び情報共有・把握の迅速化を図るため、緊急的な対応として、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理システム（HER-SYS）を開発・導入することとしました。本システムを活用いただくことにより、保健所、自治体（保健所以外の部門）、医療機関、関係業務の受託者等の関係者間での情報共有が即時に行えるようになります。

- [厚生労働省HP（外部サイトへリンク）](#)

県では、保険診療による検査を実施していただける医療機関にHER-SYSの導入を依頼しています。導入を希望する医療機関は下記の登録申請書にご記入の上、地域保健課（098-866-2215）までご連絡ください。提出方法について担当よりお知らせします。

- [EXCEL 医療機関ID登録申請書（エクセル：362KB）](#) ※黄色で塗りつぶした箇所に入力をお願いします
- [WORD 受検者配布用リーフレット（ワード：2,022KB）](#)

検査協力医療機関へのHER-SYS利用依頼（県HP）

### 3. HER-SYS活用場面・導入の工夫

#### 【保健所での活用例】

- すでに医療機関からの発生届の確認等に、広く使われている。
- また現在は、患者情報のステータス入力（療養解除等）も徹底してもらうよう、県と全保健所（6か所）でのWeb会議を実施するなど、県から保健所に、HER-SYS入力によるタイムリーな情報連携を依頼している。
- 今後に向けて、保健所サイドからは、入院中・宿泊療養中の症状変化をHER-SYS上で確認したいとの要望が出るなど、さらなる活用についても、検討を進めている。

#### 【県での活用例】

- 医療機関・保健所でのHER-SYSへの入力情報（新規陽性者情報）を確認できることで、早期の公表につなげている。
- 県調整本部での入院先調整において、外来時の医師の診断内容をタイムリーに把握できるというメリットがある。

保健所内の業務



県と保健所でのWeb会議・操作説明





### 3. HER-SYS活用場面・導入の工夫

#### 【宿泊療養施設での活用例】

- 宿泊療養者の入所時に、事務局からショートメッセージを発信し、本人によるスマホでの健康状態入力を促すトライアルを実施したところ、本人による入力率が1割→5割に向上した。
- 看護職向けのHER-SYS講習会を実施し、常駐の看護師がHER-SYSを利活用できる環境を整備した。

#### ◆利用のメリットについて（看護職からの意見）

- 看護職から入所者全員への電話による健康観察から、基礎疾患のある人や症状の気になる人に絞って、効率的・重点的な（電話での）健康観察が可能になる。
- HER-SYSに入力されている検査日・発症日等の情報や、外来受診時の症状を確認できるため、本人への聞き取りが不要になる。

看護職向けのHER-SYS講習会



看護職による宿泊療養者の健康観察





## 4. 今後のさらなる活用に向けて

- 現場ごとの業務内容に応じたニーズと課題の整理  
(例：検索機能向上、集計リスト、帳票作成などの機能充実)
- HER-SYSの定期的な機能改善点の周知や、現場・場面ごとの使い方等に関するノウハウの提供  
(例：Web説明会の実施など)